



撮影：政川慎治

野村万作・萬齋・裕基 狂言二代の夕べ



撮影：政川慎治

2026年

12月3日 木

18:30開演(17:45開場)

文京シビックホール
大ホール

料金(全席指定・税込)

S席6,000円 A席5,000円 B席4,000円

発売日 2026年7月19日(日) 10:00から

チケットのお求め・お問合せ

シビックチケット 03-5803-1111

東京都文京区春日一丁目16番21号 文京シビックセンター2階
(10:00~19:00 土・日・祝休日も受付。)

チケットぴあ <https://t.pia.jp/>

シビックホールメンバーズ インターネット限定で
入会金・年会費無料 <https://b-civichall.pia.jp/>

※発売初日のチケットのお求めは、お一人様4枚までとなります。お席は選べません。
※未就学児のご入場はご遠慮願います。
※都合により出演者・演目が変更になる場合がございます。
※ご予約後の変更およびキャンセルはお受け出来ません。
※公演中止の場合を除き、ご入金後の払い戻しはいたしません。

2023年秋、文化勲章を受章した野村万作、
映像作品・現代劇等でも活躍する野村萬齋、
若手の注目株・野村裕基の親子三代による
至高の芸をおおくりします。



出演

野村万作



野村萬齋



野村裕基

万作の会

番組
解説
奈須与市語
木川上 六駄



〒112-0003 東京都文京区春日 1-16-21
文京シビックセンター 1F

●交通アクセス

- ・東京メトロ丸ノ内線・南北線
「後楽園」駅【直結】
- ・都営地下鉄三田線・大江戸線
「春日」駅【直結】
- ・Bーぐる(文京区コミュニティバス)
停留所1番
「文京シビックセンター(春日駅前)」

<https://www.b-academy.jp/access/>



follow us @BunkyoCivicHall

撮影：政川慎治



解説 野村 萬齋

奈須与市語

野村 裕基

川上

盲目の夫

野村 万作

— 休憩 —

木六駄

太郎冠者

野村 萬齋

妻 中村 修一

主 内藤 連

茶屋 高野 和憲

伯父 深田 博治

あらすじ

なすのよいかたり

奈須与市語

能「八島」の間狂言の特殊演出として演じられる語りで、奈須与市が扇の的を射た有名なエピソードを仕形話にしたもの。狂言の代表的な秘伝で、能とは別に単独でも演じられます。奈須与市・源義経・後藤兵衛実基などの人物を一人で演じ分ける華やかな仕形は、観る者を引き込まずにはられません。

川上

かわかみ

吉野の里に住む盲目の夫が、霊験あらたかという川上の地蔵に参詣する。参籠の甲斐あり早速目が開くが、地蔵のお告げには「連れ添う妻が悪縁ゆえ離別せよ」という条件があった。それを聞いた妻は腹を立て、地蔵をのしり、絶対に別れないと言いつける。そこで夫は……

夢想による地蔵のお告げといった、狂言が成立した中世ならではの展開の中に、現代にも通じる時代を超えたテーマをはらんだ作品です。昨年八月、野村万作初のドキュメンタリー映画「六つの顔」のメインテーマとして取りあげた演目をお楽しみください。

木六駄

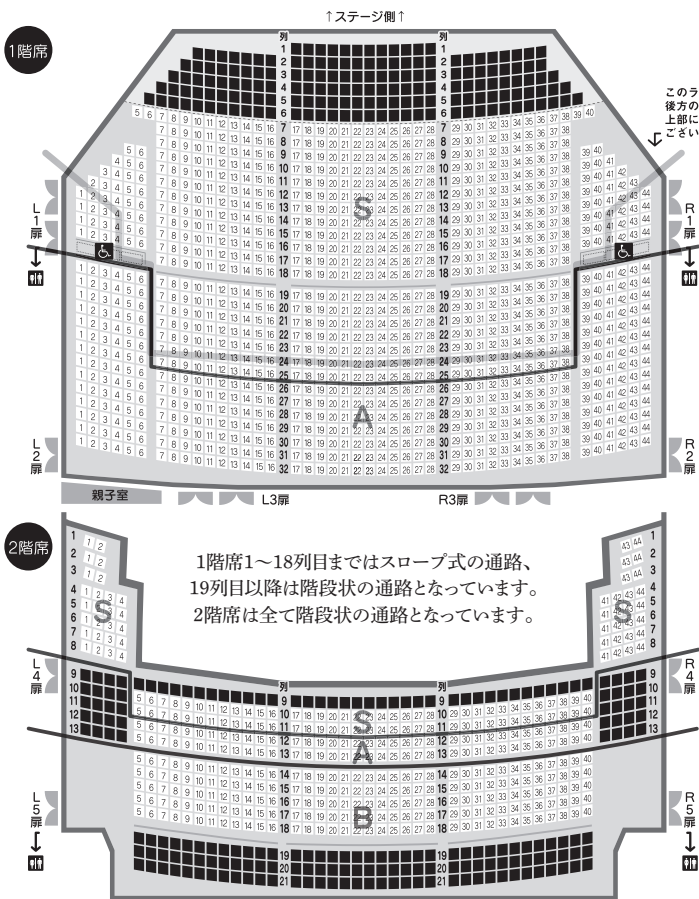
きろくだ

主人は、山ひとつ向うの都に住む伯父へのお歳暮として、炭を六駄と木を六駄それに上等の樽酒を届けるよう太郎冠者に命ずる。雪の降る山中、荷を積んだ十二頭の牛を追い、ようやく峠の茶屋にたどり着いた太郎冠者は酒を所望するが、あまく茶屋が切らしていたので、届けるはずの樽酒に手をつけ、茶屋と酌み交わすうちに全部飲み干してしまふ。更に酔った勢いで木六駄まで茶屋にやっしまし、太郎冠者は残りの炭六駄をのせた牛を引いて伯父のもとへ行くのだが……

降りしきる雪の中、蓑笠をつけ、一本の追竹だけで十二頭の牛を追う太郎冠者の演技が見どころです。また、酒宴の際に酔態で舞う「鶯舞」など、狂言として重厚な構成の中に庶民の生活感情が豊かに描かれた秀作です。

大ホール座席表

■非販売席



野村万作

のむら まんさく

一九三三年生。重要無形文化財各個指定保持者(人間国宝)、

文化功労者、日本芸術院会員。文化勲章受章。祖父・故初世野村萬齋及び父・故六世野村万蔵に師事。早稲田大学文学部卒業。「万作の会」主宰。軽妙洒脱かつ緻密な表現のなかに深い情感を湛える、品格ある芸は、狂言の頂点を感じさせる。狂言の技術の粋が尽くされる秘曲『釣狐』に長年取り組み、その演技で芸術祭大賞を受賞したほか、紀伊國屋演劇賞、日本芸術院賞、松尾芸能賞、紫綬褒章、坪内逍遙大賞、朝日賞、旭日小綬章、中日文化賞、ジャパ・ソナエイ賞等多数の受賞歴を持つ。『月に憑かれたピエロ』『子午線の祀り』『秋江』『法螺待』『敦山月記・名人伝』等、狂言師として新たな試みにもしばしば取り組み、現在に至る狂言隆盛の礎を築く。



野村萬齋

のむら まんざい

一九六六年生。祖父・故六世野村万蔵及び父・野村万作に師事。重要

無形文化財総合指定保持者。東京藝術大学音楽学部卒業。「狂言ごさる乃座」主宰。国内外で多数の狂言・能公演に参加、普及に貢献する一方、現代劇や映画・テレビドラマの主演、舞台「敦山月記・名人伝」「子午線の祀り」「ハムレット」能狂言「鬼滅の刃」「日出処の天子」など古典の技法を駆使した作品の演出で幅広く活躍。現在の日本の文化芸術を牽引するトップランナーのひとつ。芸術祭新人賞・優秀賞、芸術選奨文部科学大臣新人賞、朝日舞台芸術賞、紀伊國屋演劇賞、毎日芸術賞千田是也賞、読売演劇大賞最優秀作品賞、観世寿夫記念法政大学能楽賞、松尾芸能賞大賞、坪内逍遙大賞を受賞した。石川県立音楽堂芸術監督。東京藝術大学・日本大学芸術学部客員教授。(公社)全国公立文化施設協会会長。



野村裕基

のむら ゆき

一九九九年生。野村萬齋の長男。祖父・野村万作及び父に師事。

慶応義塾大学法学部卒業。能楽協会会員。「狂言イデアの会」主宰。三歳の時に「靉猿」で初舞台後、子方として国内外で多数の舞台に出演、修業を続け、『三番叟』『奈須与市語』『釣狐』を抜く。世田谷パブリックシアター「ハムレット」、能狂言「鬼滅の刃」で重要な役を演じ、活動の場を広げている。朝日カルチャーセンターや全国各地の狂言ワークショップで講師を務めるほか、東京大学・早稲田大学・成城大学の狂言サークルを指導し狂言の普及に力を注いでいる。